

技術系企業では社会を革新する新薬や新材料の候補物質を発見する探索研究が行われている。国際的な厳しい競争のもとで、この探索研究を効果的に進めることは技術系企業における最も重要な課題のひとつとなっている。しかしながら、従来の技術経営論においては、発見を遂げた以降にいかにか製品開発を効率的に推進させるかという製品開発支援が主要な研究対象であり、難しい課題である研究者の発見のプロセスを対象とする探索研究支援マネジメント研究は十分ではなかった。

このような状況の中で、本論文は、我が国の企業における探索研究を支援する過程と方法を実証的に解明したものであり、この研究課題に取り組んだ本論文の意義は高く評価される。

本論文は9章からなる。第1章は序論であり、研究の背景と目的が述べられている。第2章では、企業の探索研究の支援に対する評価指標を提示している。次いで、企業の研究マネジメントの実態を調査することにより、階層的組織と、成果主義型人事制度に基づくマネジメントが、探索研究支援にとって問題となることを明らかにしている。

第3章では、企業の探索研究支援に関する先行研究をレビューし、そのいずれもが、実務的に活用できる方策まで十分に議論されておらず、さらにマネジメントへの体系化も不十分であることを明らかにしている。

第4章では、企業における探索研究支援のために、「発見の現場主導型マネジメント」と称するマネジメント方法を提案している。これは、階層的組織と成果主義型人事制度に基づくマネジメントの問題点を抑制するために、4つの特性要素、すなわち、1. 破格の権限の委譲、2. ビジョン的表現による目標の共有、3. ゆるやかなコミュニケーション、4. 既存組織との臨機応変な整合を組み合わせる新規の方法である。

第5章では、提案した発見の現場主導型マネジメント方法の有効性を確認するために、日本の大手技術系企業で行なった実証研究の方法を述べている。合計15チームに対して提案方法の適用群と非適用群を設定した実証実験の全容と、調査分析に関する具体的な方法と手順を示している。

第6章および第7章では、この技術系企業で実施した実証実験の結果に基づき、発見の現場主導型マネジメント方法の有効性を確認している。まず第6章では、2ヶ月半に渡って実施した詳細な適用実験の結果を分析し、この方法が発見のプロセスに重要となる研究者の意識や志向と研究行動を高める効果をもたらすことを明らかにしている。また、第7章では、最長で18ヶ月におよぶ長期的適用により、発見の現場主導型マネジメントが、研究者の発見のプロセスを支援し、発見の創出へと導く効果を事例分析によって明らかにしている。さらに、この方法を用いたマネジメントを実施した結果、その研究者の研究成果が厳しい国際会議への論文採択や、優れた特許出願などに結びつく効果があることを明らかにしている。

第8章では、一連の実証実験の結果と効果分析に基づき、発見の現場主導型マネジメントが、企業における探索研究支援に与える有効性の限界を考察し、さらに企業風土や経営方針のことなる多くの企業に適用する場合の課題も明らかにして、本研究の発展の方向を示している。

第9章は、結論であり、本研究で得られた結果が要約されている。

以上のように本論文は、企業における探索研究支援のためのマネジメント方法を具体的に提案し、それを実際に日本の技術系企業に適用し有効性を明らかにしたものであり、技術経営学分野の研究成果として高く評価できる。従って、本審査委員会は博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。